

令和5年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校・指定校群 (高松市立桜町中学校)

2 実施の内容

昨年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査で「あなたは、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の問いに肯定的な回答をした生徒は32.2%と県や全国よりかなり低く、地域の行事やボランティア活動に参加している生徒の割合も低かった。他方で、今年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査で「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した生徒の割合は60.7%であったことなどから、ボランティア活動に興味や関心を持っていると考え、生徒と家庭(保護者)、地域のつながりの中で、生徒の活躍する場面や生徒同士が称賛しあったり、地域の方に褒められたりする場面を設定できるような体験的な活動「ふれあい桜町」を計画し、以下の実践を行った。これらの実践に当たっては、自己有用感と自尊感情の向上に関して、地域からの称賛による後押しも期待した。

(1) 「花いっぱい運動」の実施

例年、有志による「花いっぱい運動」を行ってきたが、生徒から「もっと地域の人に活動を知ってもらいたい」「もっと多くの場所に花を届けたい」との要望が出ていた。そこで、今年度は、専門委員会と協議し、中心となる委員会を福祉委員会に決め、生徒会本部役員、福祉委員、生徒有志が活動に参加し、参加者は昨年度の倍となった。また、生徒同士だけでなく、生徒と家庭(保護者)、地域のつながりの中で、生徒の活躍する場面や生徒同士が称賛しあったり、地域の方に褒められたりする場面を設定するため、教員が間に入り、栗林校区コミュニティ協議会、PTAとの協同活動とした。企画・立案を福祉委員会で行い、担当教員が活動をサポートし、全校に周知した。地域の方や保護者には、教頭・教員が趣旨や実施内容を伝え、連携を図った。当日の苗の移植作業や各施設への配布などだけでなく、栗林校区コミュニティ協議会には配布する施設の紹介や軽トラックの手配等に力を貸していただいた。移植作業の日は生徒50名、教職員10名、地域の方・保護者(PTA)30名が参加した。今年度は、校区内10か所を含め、地域や校内を自分たちで育てた花で彩った。

(2) 「マイタウン桜町」(ボランティア清掃の実施と地域清掃活動への参加)の実施

地域ボランティア活動の紹介や参加、校内ボランティア活動の企画・立案を「マイタウン桜町」と名付け、実施した。教頭や教員が地域に出向いたり、栗林校区コミュニティ協議会とのつながりをつくったりすることで、地域ボランティア活動の情報を収集し、生徒会を通じて、生徒に周知を行った。特に、大きな地域ボランティアとして、10月22日に実施された「栗林公園おもてなしクリーン作戦2023」に生徒有志(30名)と教職員(4名)が参加した。また、地域ボランティアに参加するだけでなく、自分たちで清掃ボランティアを企画・立案し、実施した。大きな取組として、12月26日に「桜中ピカール大作戦」を実施した。生徒会が呼びかけ、生徒(40名)と保護者(15名)が参加した。保護者については、PTA担当教員がメールやHPを通じ、参加を呼びかけた。生徒と保護者でチームを作り、清掃活動に取り組んだ。保護者には事前に生徒の活動に対して、前向きな声かけをしてほしいと依頼した。

(3) 「栗林未来会議」への参加

10月22日に開催された「栗林未来会議」に参加した。昨年度から実施されているもので、この会議への参加についても栗林校区コミュニティ協議会の方からいただいた情報を、担当教員が生徒会におろし、生徒会で参加者を募り、参加した。子どもたちも校区にあることを誇りに思っている栗林公園の魅力をどうしたらもっと伝えることができるか、これからの未来を担う中学生が栗林公園の未来を考える会である。栗林公園の職員の方だけでなく、高松第一高校の高校生とも互いに意見を交わしながら、協議を行った。

3 成果

(1) アンケート結果の変遷

次の表は、8月と12月に県教育センターに作成していただいたアンケートの結果である。

質問項目	8月実施	12月実施	増減
自分には良いところがある	3.1	3.2	+0.1
私はまわりの人の役に立ちたい	3.5	3.5	±0
家族の人は、私のがんばりを認めてくれる	3.4	3.5	+0.1
いろいろな活動をするときに、先生は私たちに活動を任せてくれる	3.4	3.4	±0

このアンケート結果において、大きな変容を見ることはできなかったが、校内で実施した生徒アンケートの昨年度との比較（ともに12月実施）において「自分に良いところがあると思う」と肯定的に回答した生徒が74.7%（R4年度）から77.8%と3.1%増加した。「家族や友人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒が92.3%（R4年度）から92.8%とわずかながら増加した。また、今年度の生徒アンケートでは、「学校生活が楽しい」と肯定的に答えた生徒の割合は90.4%、「人（友人等）が困っているときは、進んで助けている」と肯定的に答えた生徒の割合は92.8%となっており、ともに高い割合を示した。

(2) 自発的・自治的な交流活動における子どもの様子

・花いっぱい運動について

地域の方や保護者に参加してもらい、今までにない達成感が子どもたちにあったようである。苗をプランターに移植している作業中には、地域の方に植え方を教えてもらったり、逆に地域の方がプランターを運ぶのを見て、自主的に運搬役を請け負ったりしている姿が見られた。また、水やり当番を決め、苗が大きくなるまで大切に育てる姿が印象的であった。プランターを施設に届ける際には、福祉委員の発案で届ける途中の道路のゴミ拾いを自主的に行った。プランターを受け取った施設の方が「ありがとう」「大事に育てます」「癒やされますね」といってもらったときの子どもたちの笑顔は学校では見られないものであった。

・ふれあい桜町について

「桜中ピカール大作戦」では、清掃活動中や終了時には、「がんばったね。お疲れ様」「ありがとう」「がんばってよかったね。きれいになったね」等、自然と互い（生徒同士、保護者と生徒間で）を称賛しあう声が聞かれた。「栗林未来会議」では、学校ではできない、また、子どもたちだけでは経験できないことが経験でき、参加者は自分の活動に自信を持つことができた。協議した内容について、後日、栗林公園のX（旧ツイッター）に連載され、参加した生徒だけでなく、全校生が興味を持ち、中には「来年も実施されるのであれば参加したい」と申し出る生徒もいた。



【プランターへの移植のようす】



【花いっぱい新聞（掲示物）】



【ピカール大作戦のようす】



【栗林公園未来会議のようす】

(3) 総括

これらの取組を行うにあたって、担当教員は生徒会や子どもたちへの支援や指導だけでなく、地域の方との連携、保護者の方への依頼などを行ってきた。決して、子どもたちだけの力だけでは行うことのできないものであるが、教員は裏方に徹し、あくまでも子どもたちが主役、子どもたちの手で実施できるように渉外を行い、子どもたちが達成感を持てるようにした。その結果、「やればできる」という一定の自信につなげることができたと考えている。

また、今回の取組を通じ、子どもたちが地域の人と関わり、地域のことを考えていくことができた。このことは、自分たちが住んでいる校区（地域）の新たな発見につながり、よりよく校区（地域）を見直すことができ、自分の住む校区（地域）に誇りを持つことにつながったと考えられる。

このように、人とのふれあい（生徒同士や生徒・地域（保護者を含む）・教職員間の）を活性化させたことで子どもたちの豊かな心を育むことができたと考えている。